

## 令和元年8月6日 市長定例記者会見 会見録

### 【司会】

それでは、ただ今から、市長定例記者会見を開催いたします。先ほど、ご案内しましたとおり、本日もライブで配信をしております。

本日の話題は1件です。市長よろしく願いいたします。

### 【市長】

はい、まず、第72回の清水みなと祭り、そして、清水港の開港120周年と海フェスタ、一連の行事が日曜日に終わりましたが、本当に記者の皆さんには、鋭意、報道をしていただき、情報発信していただき、おかげさまで、ずいぶんたくさんの方々に、清水を楽しんでいただくことができました。本当にどうもありがとうございました。まずは、今日、お礼を申し上げたいというふうに思いました。

そして、その陰に隠れて報道量は少なかったんだけど、皆さんに伝えたい大事なセレモニーが、実は両河内の、3日の土曜日だったんですけどもね、「ここバス」、昨年4月から運行開始したんですけども、静岡鉄道のが撤退してしまって、地域の足がなくなる、なんとかしなきゃいけないと言って地域の住民がNPO法人を組織をして、そして、停留所を増やして、便数を増やして、そして、今、なんとかサステイナブルに経営、運営ができていて、ついに乗客3万人を達成をしたという節目の式典を開いたんですね。

これ、すごいことなんですよ。で、これは全国のモデルになり得る、どうやって高齢化社会の中でお年寄りの足を確保するか。ドライバー、高齢者ドライバーのね、アクセルとブレーキの踏み間違いによるね、事故も全国的な課題になっている中で、引きこもってしまわないように地域の公共交通機関によって外に出る仕組みを出来るか。あるいは中山間地域から街の中心に車に頼らないで出てこれるようになって、そこで生活のね、用件が全て賄えるような、そんな仕組みができるかと。

これはどこの自治体、どこの都市も行政課題として突きつけられているものです。それを両河内の皆さんは、当事者意識を持って、一生懸命、ここバスを運営してくれています。まだまだ、そのここバスの使い勝手は改善できるんですね、そのキーワードがMaaSなんです。ICTとかAIの技術をふんだんに活用をして、もっともっとここバスを有効活用することができると、効率性を高めることができる。そういうところを静岡市はこれから、経産省と国交省のMaaSのメニューにも同時採択、これ都市局、頑張ってくれて、されましたのでね、これを研究して、市民の足に悩んでいる高齢化社会、あるいは中山間地域の福音になるような、ロールモデルになれる、なるようなモデル都市になるような、そんな取り組みを進めていきたい。それを官民連携でやりたい。なので、交通事業者、民間の交通事業者、静岡鉄道と一緒に、あるいは議員の皆さんにも同行してもらって、そのMaaSの先進地で、静岡市、だいたい人口規模が65万人と同じようなフィンランドのヘルシンキに、私が団長になって今月末に視察に行ってきます。まずは「百聞は一見にしかず」ということで、視察に行ってくるわけですけども、そのことについて、市民の皆さんに啓発もしていきたいというシンポジ

ウムが、今週の土曜に開かれるのが、お手元に配ったこれです。

「もっとずっと自分らしく暮らせる未来へと。静岡市の未来の交通を考えるシンポジウム」。この猛暑の中、このような少し硬いシンポジウムにお集まりいただくというのは大変なことでありますので、今日、冒頭、これを皆さんに少し意識をしていただきたいと紹介させていただきますので、8月10日、静銀ホールのユーフォニア、参加無料、このキックオフシンポジウムに多くの方々にお集まりいただきたいというふうに呼びかけたいと思いますので、ぜひ記者の皆さんにも、宣伝方、ご協力をお願いしたいというふうに思っております。ぜひ、よろしく願いをいたします。

さて、それでは、今日の話題は一つ、「静岡市はいいねえ。さくらももこさんが愛したまち、特設展示を開催します」ということに移ります。

ご存知のように静岡市清水区出身のさくらももこさんがお亡くなりになって、もうすぐ一年が経とうとしております。ももこさんが、たいへん私たちにとってありがたかったことは、自ら広告塔になって、静岡市はいいねえという情報発信を趣旨一貫してくださったことであります。

静岡市民って、わりあいPR下手で、こんなに良いものがたくさん静岡市内にあるのに、そのことを情報発信する、これは行政も含めてね、苦手でありました。

しかし、地方創生の時代、静岡市にこんな良いところがあるんだ、あんな良いところがあるんだということをもっともっと戦略的に広報していかなくちゃいけないし、市民の皆さんにもそういうスピリットを持っていただきたい。そのロールモデルが、私はさくらももこさんだったんじゃないかなというふうに思いました。

22種類のね、自画像のイラストを書いてくれて、私たちの職員、これを名刺に刷り込んで使わせてもらってますけども、静岡市はいいねえ、三保松原だったり、東照宮だったり、桜えびだったり、いろんなイラストがありますけれども、それを用いて、静岡市はいいねえを発信をしてくださったわけですね。

そのさくらももこさんの気持ちを受け継いで、そのレガシーを受け継いで、私たち市民が、静岡市はいいねえを、もっともっと、ももこさんのように発信をしてもらいたい。そして、この外に、ももこさん、発信してもらったので、こういう静岡市はいいねえキャンペーンをやったという、市民の皆さん、意外と知らないんですね。そのことを知っていただくという意味も込めて、今回、静岡市の広報課が中心になって、特設展示会を開催することにいたしました。

この特設展示は、さくらさんが生まれ育った清水区の清水庁舎1階をメイン会場にし、8月の19日の月曜日から30日の金曜日までの2週間の夏休みの期間限定で開催をいたします。

一人でも多くの方々に、この清水庁舎のメイン会場に来ていただいて、いかにさくらさんが静岡市を愛してくれていたのか、そして、そのことを情報発信をしてくださっていたのか、ということに思いを寄せていただき、そして、「よし、じゃあ自分も静岡市はいいねえをPRしよう」という気持ちになっていただきたいということで、ぜひ、この特別展示にいらっしやっていただきたい。そのために今回、秘蔵の、今回だけの特別、今回これは原画なんですよ。アニメーションなんかもそうですが、原画っていうのは、ものすごい貴重なんですね。さくらさん自らがデッサンから色付けまでした、そして、それを日本平動物園に寄贈した、この幻の原画を今回、特別公開をしたいと思っております。

それを間近に生で観ていただきたいと。これが今回の展示の目玉でありますけども、広報課長のこれは、絵を広報課長に渡し、横の机に建てかける…

これです。ということですので、これを特別展示したいなというふうに思います。非常に貴重なものだと思います。プロダクション関係者に聞いてもね、ちょっと間近に、後で見てください。

お手元に資料があるかと思います。展示内容として①秘蔵イラスト、そして、少しいさくら先生の仕事部屋にあつらえたものも用意をして、大型看板も作り、ロールアップバナースタンドも用意をし、その前で夏休みの思い出としてね、写真が撮れるようにもします。そして、これも愛好者やマニアの方々にはすごく有名なんですけど、マンホール、これもここに特別に展示をします。

そして、この特別展示の目的でありますけども、市民の皆さんがももこさんの気持ちを受け継いで、静岡市のいいねを発信していただきたいという、この⑧、「あなたの静岡市はいいねを大募集」ということをノートに書いていただき、そして、これを市の公式のツイッターで発信をしていきたいというふうに思っています。

その発信をしてくださった来場者の皆さんには、特別なノベルティと言いますか、特典をプレゼントしたいなというふうに思って、その何をノベルティにするかっていうのは、今、広報課が検討してますけども、会期、始まるまでには発表したいと思えますけどもね。ここでしかゲットできない、今までさくらさんが私たち静岡市のために準備してくれたノベルティを、漏れなく発信をしてくださった方には、プレゼントしていきたいな、というふうに思いますので、多くの方々にこの特別展示会にいらっしやっただきたいな、というふうに思っています。

なお、メイン会場は清水なんですけども、サテライト会場として、昨日オープンしたこの静岡庁舎3階の「茶木魚」も活用していきたいな、というふうに思っています。

あそこはオリジナルイラスト、茶畑の風景とか、オクシズの風景とか、しずまえの魚とか、「茶木魚」にふさわしい、さくらさんのオリジナルイラストの掲出を試みたり、あるいは、大型スクリーンがありますので、さくらさんの残してくれた、様々なイラストを元にした動画なんかの、これはずっとリピートで、上映をしていきたいな、というふうに思っております。

いずれにいたしましても、さくらさんの作品を見て私たちの絵のようになれたこと、そして、さくらさんがそうであったように、故郷を愛する気持ちを忘れることなく、市民の皆さん一人ひとりが、静岡市はいいねを自分ごととして感じたもの、広く世界に向けて発信をしていただくことが、さくらさんに届けたい私たちの感謝の想いです。

ぜひ多くの方々に、会場にお運びいただきたいというふうにお願いをいたします。以上です。

#### 【司会】

それではただいまの発表項目につきまして、ご質問がある方はお願いしたいと思いますが、ご質問の際は、社名とお名前をおっしゃってからお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

よろしいですか。はい。またご不明な点がありましたら広報課の方までお問い合わせください。

それで次に幹事社質問に移りたいと思いますので、幹事社さん、よろしくお願いをいたします。

## 【静岡新聞】

2つ質問があります。1 つめから質問させていただきます。

日本平動物園が 50 周年を迎えまして、今月 1 日記念式典が開かれました。

田辺市長は今年4月の市長選のマニフェストの中で、4年間に実行する政策の一つとして、日本平動物園に象のファミリーを招くという公約を掲げておられました。

その点について現在までの進捗状況等、今後の展望についてお聞かせください。

また 50 周年を迎えた日本平動物園を、今後どうしていきたいのか、展望もお聞かせください。

## 【市長】

そうだそうだ。日本平動物園も 50 周年の記念式典、本当に皆さんに情報発信をしていただきありがとうございました。

これからの 50 年、先人たちの 50 年の努力に感謝をし、更にレベルアップをして、ワールドクラスの動物園にしていきたいなあ、と決意を新たにしているわけですが、開園当初の昭和 44 年の古いビデオを見ますと、そこにダンボの若かりし頃が映ってるんですね。

ご質問の日本平動物園の象、これをどうしていくかというのが、50 年この日本平動物園の歴史を見守り続けてきてくれた、ダンボやシャンティィに対する、私たち管理者、人間の責任だなあというふうに思っています。

これエピソードですけど、昭和 44 年、1969 年に日本平動物園を開園をして、ダンボがやってきたわけですが、今、国内に動物園で飼育されている象っていうのは 83 頭あるんです。その 83 頭のうち3番目に長寿なのが、53 歳です。53 歳ダンボなんですよ。で、もう一頭のシャンティ6番目、50 歳なんです。

だから、83 頭いるうちのベストテンに日本平動物園が飼育している2頭が入っている。健康長寿都市を目指している静岡市としても、この長寿の象さんが、2頭、今までも元気で頑張っているというのは、それを体現してくれてるなあ。この温暖な気候の中で、長生きをしてくれたんだというふうに思ってますし、また、もうひとつ、象の生態系って皆さんご存知かどうか、今いるダンボもシャンティも雌なんですよ。雌同士ってなかなか、象、難しいんですよ。一方が一方を突き飛ばしたり、落としたりというようなことなんです、その中においてこの姉妹はとても仲がいい。そのお姉さんであるダンボが、妹であるシャンティを気遣って、本当に仲の良い姉妹としてシスターズとして今、元気に長生きしてくれている。穏やかな性格の雌の象なんです。

この穏やかさっていうのも、静岡市の市民性を体現をしている。そういう意味でも、本当に静岡の日本平動物園らしい、長寿で穏やかな性格の2頭の象で、私たちにとっては日本平動物園の中でも、子どもたちに人気あるし、宝物のような動物であります。それを、しかしながら、私たちに寿命があるのと同じように、生物、生き物ですから寿命がある。

しかし、50 年前に比べて動物の輸出入について、ワシントン条約等々、厳しい環境になっている。そこをどうというふうにつないでいくかと。これを先見的に、今のうちから2人が元気な、今のうちから取り組んでいくのが、責任だろうというふうに思っております。

現在の進捗状況ですがタイ王国、タイ政府と交渉を進めております。

で、タイは今年の5月に象輸出に関する規則、新しい法律が告示されました。

しかし、静岡市は「日・タイ友好 長政まつり」を開催するなど、長きにわたりタイとの、自治体としての友好関係を築いております。タイフェスティバルなんていうのもね、民間の団体と有志によって行われておりますので、これから交渉を進めていきたいなというふうに思っています。

それで、種の保存ということがキーワードになっていくと思うんですけども、これは 50 周年の記念式典のあいさつの中で、私、申し上げましたとおり、ロシアのサンクトペテルブルグのレニングラード動物園とか、あるいはアメリカ姉妹都市のオマハ市のヘンリードローリー動物園という世界的に定評のある動物園と連携をしながら、私たち静岡市もSDGsという陸上資源を守っていくという目標に向けて、レベルの高い学術研究もきちっとできるような、そんな動物園にしていくためにやっぱり、象というものは不可欠な要素でありますので、この絶滅の危機に瀕する野生動物の種の保存を図ると。そして、令和という新しい時代に命の大切さを伝える、そんな動物園にしていくために、このダンボとシャンティの後の時代のことも視野に入れた象の取得に向けて努力をしていきたいというふうに思っています。以上です。

で、私はこういう大きな方向性を示すわけですけども、実際、交渉の最前線にあたっているのは小長谷副市長ですので、ここで補足をしていただいた方が…

#### 【小長谷副市長】

それでは今、市長からお話がありましたようにですね、象との具体的な経緯について、若干の時系列的に概要をご説明させていただきたいと思うんですけども、今、お話がありましたようにですね、平成 29 年の8月にタイフェスティバルが行われた折に、タイの駐日大使、ブンナーク大使という方がいらっしゃいますけれども、その方に口頭でその調整方をお願いしたところ、快諾を頂いたという経緯がありますので、29 年の 10 月にタイ大使あてに、正式に文書でその調整方等を依頼しました。で、それを受けてですね、具体的には 30 年の4月に象園舎に関する適正配置調査みたいなものも行なっております。そして、その後ですね、今年の1月、平成 31 年の1月に、私と観光交流文化局長、そして園長等とですね、タイ王国の方に直接交渉に出向きました。

で、その交渉先が、それを所管をしている天然資源環境省というところでした、そこの事務次官と直接、私がお会いをして静岡市の状況、タイに関する私どもの要望事項等をお伝えをしました。

で、非常にその時は好意的に捉えて前向きなご返事をいただきましたが、ただし、国内の法律等があつてですね、これまでタイ国外に象を 10 年以上は搬出していないという事実、そして、タイもですね、自然保護、環境団体の反対運動が非常に激しく行われていると。そういうような状況も説明を受けて。ただ、タイが今年の春に総選挙を行って、搬出できるような法律改正をしますよと。

で、その上でまた考えましようというご返事をいただきました。まあ、そういったことから今度は今年の5月に総選挙の新内閣が発足をして、首相は変わってないんですけど新内閣が発足をして、一連の法律改正、規則改正がされたという事実がございました。

で、それを受けて早速じゃあその事実関係を確認しようということで、また再度、私がこの6月にタイ

に、園長ほかと出張に出向き、その内容を確認をしてきました。

で、その内容の、規則の改正の内容はですね、タイから搬出できるケースとして、ひとつ目は、短期に貸し出しする場合は、5年間で延長がないというようなこと。そして、もうひとつは、二点目は国外に譲渡する場合には、非常に友好関係があって一連の交流が続いていて、なおかつ総理大臣が最終的に判断をしますよと、そういう内容です。

で、その総理大臣が出す場合にも、1機関、1機関は、これは機関も国もそうだと思うんですけども、1機関・1国について、1年を通じて2頭以下であることと。そういう内容が確認をできました。

で、私どもとしてはですね、これから象の繁殖というようなことを目的に園舎を、象を導入したいということになります。そうしますと、繁殖目的ですと雄1頭に雌3頭というのがある意味では先進の札幌等の動物園等もそういうような形で導入されているという事実があるものですから、今の条件がなかなかクリアできる状況ではないなというようなことでありますけれども、これも規則等のルールですので、やっぱり外交力ですとか、ありとあらゆるチャンネルを通じてですね、粘り強く今後も交渉を続けていきたいということでもあります。

現在の状況はそのような状況になっていると、そういうことであります。

#### 【静岡新聞】

詳細にありがとうございます。

次の質問なんですが、今、徴用工問題であるとか、ホワイト国除外などをきっかけに日韓関係がこじれていまして、市民交流にも影響を及ぼしています。

現在までに静岡市が関係する交流事業で影響が出ているものがあれば教えてください。

#### 【市長】

はい。おかげさまで静岡市は影響ありません。今のところ。具体的に言うと、今月9日の金曜日から開催される全国少年少女草サッカー大会、これは韓国から女子の2チームの参加が予定されていますが、予定どおり来静するということでもあります。また、私が会長を務める静岡市国際交流協会が主催をする、静岡市の大学生が韓国に行く、訪問するという訪韓研修事業、この水原と書いてスウォン市、これ定期的に行っているんですけども、この研修事業も予定どおりに行うつもりであります。あるいは、これから秋に向けては、10月に朝鮮通信使に関する文化交流事業がありますが、現時点では釜山の文化財団を通じて芸能団体を招聘をし、事業を実施する予定となっております。さらに、11月には大道芸ワールドカップ in 静岡が行われますが、これについても大道芸アーティスト3組を、今、招聘をして、実施をする予定となっております。キャンセルの予定はありません。以上です。

こういう時こそ市民交流、citizen to citizen の交流が大事なんだろうなというふうに思います。政府対政府は難しいことがいろいろあるわけじゃないですか。こういう時こそ今まで、自治体と自治体、市民対市民が合流して一緒に、「きれいなものはきれい」「おいしいものはおいしい」という人間として共通の感情を、一緒になって経験をする、体験をするということが、すごく平和の礎として私は大

事だというふうに思っていますから、今こそ、自治体同士、市民同士の交流というものを大事にしたいと思います。

先週、フランスの自治体の幹部職員をクレアの依頼に応じて、私たち数日間受け入れて、受け入れたんですけども、姉妹都市のカヌヌ市との関係もありますので。これも同じで、政府対政府はカルロス・ゴーンの関係とか、日産とルノーの関係でわりとギクシャクしているんですよ、日本とフランスも。だけど、だからこそね、我々草の根でやはりこうやって日本の文化を知ってもらったり、日本人の考え方を知ってもらうということが大事だねっていうことを、来日し初めて知ったと、日産のイメージが強かったというフランス人も多かったんですけどね、そのコミュニケーションする中でね、ああ、そうだったのかと。すごく日本という国は私たちフランスに対しても好意を寄せてくれているし、私たちが静岡市の文化、日本の文化に敬意を表しているという、良い交流が先週できたんですね。そういうものなんだろうなというふうに思っています。

**【司会】**

幹事社さん、よろしいでしょうか。

**【静岡新聞】**

ありがとうございます。

**【司会】**

ありがとうございました。

それでは、ここからは、各社さんからのご質問をお受けしたいと思いますので、よろしく願いいたします。いかがでしょうか、はい、静岡朝日テレビさん。

**【静岡朝日テレビ】**

昨日ですね、3階に「茶木魚」がオープンしたんですが、オープンした、完成した施設を実際にご覧になった感想と、今後これをどういうふうに活用していくのかということをお聞きしたいんですが。

**【市長】**

はい、ありがとうございます。

私の想定以上のスペースを作っていただいたなと感謝をしております。

昨日も申し上げましたけれどもね、当初は財政局管財課を中心に、従来どおりの厨房の改修を中心とした食堂スペースのリニューアルだったんですね。

ただ時代は大きく変わっているし、食事、食堂という機能ではなくて、市民ファーストの目線でどんなスペースを作ったらたくさんの方々がここに集ってもらえるか、あるいは静岡市のシティプロモーションがアピールできるか、というようにお題を提供して、市の職員有志にプロジェクトチームを作っ

でもらった。そうしたら、彼らがいろいろこれから何十年もね、このスペース、仕事場所として使うわけだから思いを持ってアイデアを提供してくれて。で、職員だけではなくて若手のね、じゃあ民間とね、福祉団体の方の意見も聞いてみましょう、子育て団体の話しも聞いてみましょう、あるいは木材組合のアイデアももらいましょうと、いろいろこう輪が広がって、この茶木魚に繋がったということは、はるかに私の想定を超えた素晴らしいスペース、市民ファーストのスペースを作ってもらったな、あるいは静岡らしさがすごく醸し出されるスペースを作っていたな、というふうに私は胸を張っています。

ただし、ここ新しいスタートなのでね、またさらにね、市民の皆さんの意見やアイデアを生かしていき、メニュー構成から全体の雰囲気までね、さらにこれからストーリーを作ってもらって、さらに使い勝手の良い、さらに皆さんに慕われるような、そんな茶木魚に成長してもらえればうれしいなというふうに思います。

**【静岡朝日テレビ】**

素晴らしい施設だと思うんですが、整備にですね 9,000 万ぐらいかかっているということで、食堂にこの金額というのはちょっと高いんじゃないかなという声もあるようなんですが、そこはいかがですか。

**【市長】**

だからね、食堂と思うからいけないんですよ。コミュニティスペースです。アンテナショップです。

**【静岡朝日テレビ】**

そういう点でいえば決して高くないと？

**【市長】**

もちろん。

**【静岡朝日テレビ】**

ありがとうございます。

**【司会】**

はい、他にいかがでしょうか。

もう一度、静岡朝日テレビさん。

**【静岡朝日テレビ】**

別件なんですがよろしいですか。

日曜日にですね、静岡市の藁科川の方で、外国人が水遊び中に溺れて亡くなったという事故があるんですが、地元の人は非常に危険な場所だということを認識していたようなんですが、特に注意



を喚起するようなものはなかったと聞いています。

市としてですね、例えば看板を設置するとか、そういった対策を取るつもりというか、予定というのはございますでしょうか。

【市長】

これ詳細には、私まだ報告をもらっていませんが、あそこは地元でもね、ずいぶん危険な場所と認識をされていたんですね。そういう中で、これだけ暑いですので、やっぱり冷たい水にね、飛び込みたくなるという気持ちの中で、今回の事故に繋がってしまったというのはたいへん残念でした。

ひとつ今、問題提起をいただきましたので、検討していきたいと思っています。

【静岡朝日テレビ】

ありがとうございます。

【司会】

いかがでしょうか。はい、朝日新聞さん。

【朝日新聞】

歴史文化施設について伺いたいですけれども、前回、以前ですね、遺跡の発掘でいろいろとご見解を述べていただいたかと思うんですが、その後、設計の変更ですとか、今後の方針というのはどういうふうにお考えでしょうか。

【市長】

はい、設計の見直しについては、これまでも話しをしたのかな。現在、9月の議会で補正予算の準備を進めております。設計の発注については、今後、業者選定委員会の事務手続きを踏むため、現時点で決定はしていません。

【朝日新聞】

開業がどうなるかということも、開業の時期がどうなるかということも、いまだ遅れるとかそういう話もまだ...

【市長】

しかし、当初の予定どおりにはいかないというふうに、私は理解をしております。やっぱり遅れるというのは仕方ないと思う。でも、その遅れを最小限にしたいということで、これから取り組んでいきたいなというふうに思っています。

【朝日新聞】

ありがとうございます。

**【司会】**

いかがでしょうか。よろしいですか、はい、ありがとうございました。

それでは、以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。次回は、8月、今月ですね、20日、火曜日の午前11時からとなりますので、よろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。